

# 山と電気の風景論 ⑤

## 福島山々。磐梯山、会津駒ヶ岳 ～たおやかな残雪歩行と夏の「マタギ」登山～

セリングビジョン㈱ 代表取締役 岡部 秀也

東北の山登りは、アルプスの峻険な緊張感溢れる岩盤登山と違い、比較的、山容や土肌が柔らかく女性的でゆったりとした気分でトレッキングを楽しめる。「東北の魅力は温泉が多く、酒や料理もおいしく、人々も素朴で日本の原風景に出会える」（東北経済連合会の高橋宏明会長〈東北電力相談役〉）ことが福島登山の魅力である。



郡山駅前の線量計モニター。数値は低くなった

福島県内の登山をするきっかけは、3.11大震災に伴う福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の線量の自主調査も兼ねていた。海側の浜通りに出張した後に、「福島復興」の一助となればと山登りをしつつ地元泊まり、温泉につかり、地酒も楽しみ地元の方々と交流してきた。

今回は、会津の名峰、磐梯山と会津駒ヶ岳のヤマレコである。

### 磐梯山 1819m (平成26年4月27日)

「会津のシンボルで郷愁感あふれる山」（会津出身の電力先輩）であり、いまも活火山である。

午前10時、郡山駅でレンタカーにて出発。市街から高速に入り、東北電力の水力ダム地点や東京電力

の猪苗代電力所を通過した。猪苗代湖畔から、湖沼群が点在する「磐梯高原」と歴史ロマンあふれる「会津」をつなぐ道路、磐梯山ゴールドラインを走り、磐梯朝日国立公園の名所、磐梯山爆裂火口の絶壁に息を呑む。そして、撮影スポットから、登頂する磐梯山を拜し、ピストン日帰りコースの八方台登山に到着。ゴールドライン開通日のため、人出はまだ少なかった。

今回は、山小屋開き直前で専用道路開通日の残雪期（森林内は60cm～100cmの雪）に登った。このため駐車場には数台の駐車しか見かけなかった。また、遅い登山開始時刻だったが、雪を踏み締めスピード登山をした。中腹の山小屋は、山開きの準備で雪下ろしの最中だった。それでも山バッジとホット珈琲をお願いしたところ「今年、第一号客」と歓迎いただいた。頂上は雪溶けが進んでいたが、森林



残雪期の磐梯山山頂



頂上山小屋は雪に埋もれ閉鎖中



猪苗代付近からの磐梯山の威容

内の雪中歩行はトレースを見極めにくくアイゼンをはいても滑りやすく低木の幹につかまりつつ慎重に足を運んだ。特に雪渓のトラバースには注意した。しかし頂上から下るスロープでは柔らかな新雪コースでは、気分爽快に滑走できる。



頂上からの残雪トレッキングは快適

登山後、疲れを癒すため猪苗代湖畔の地元温泉につかり、熱い福島県名物ラーメンを味わったのは言うまでもない。

### 【行程】

- 距離：往復7km強、往復3時間半、標高差1244m
- 11:45 八方台登山口。
- 12:15 中の湯跡・火山お釜を展望。
- 13:10 弘法清水。
- 13:50 磐梯山頂上着（猪苗代湖、檜原湖、五色沼を遠景）。
- 14:00 磐梯山頂上発。
- 14:25 弘法清水小屋着。
- 14:40 弘法清水小屋発。
- 15:20 八方台登山口着。

### 会津駒ヶ岳 2132m (平成26年7月2日)

学生時代の登山仲間と夏場に登った。

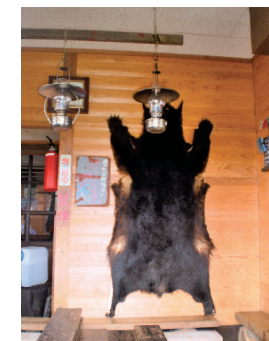
都内から東武急行で会津田島駅にてレンタカーを



真中は尾瀬の燧ヶ岳。快晴時には、武尊、谷川岳等も遠景可能

利用。熱中症対策に、塩飴と水分補給を忘れずに持参した。天候は雨が心配されたが、一転、曇り時々晴れに恵まれた。

東北電力・檜枝岐水力発電所に近い滝沢登山口は、ポピュラーなルートで山道にはチングルマ、イワカガミ、ハクサンコザクラが咲き、池塘には水芭蕉がまだ残っていた。登り



駒の小屋。マタギの伝統文化が残る

始めは、蒸し暑く体力も消耗したが、森林限界からは、なだらかな木道稜線が続き、頂上からは、御池方面の11kmにわたる尾瀬燧ヶ岳へと続く縦走路も眺望でき快適な一日だった。

駒の小屋では、仕留められた月の輪熊の表皮が飾られていた。狩猟で生計を立てるマタギの伝統が見られた。ここは由緒ある檜枝岐村の平家の落人伝説が残る、歌舞伎舞台も有名であるが、昔からの狩猟生活の文化圏である。山の幸、熊鍋や清流の幸、岩魚の入った舞茸新蕎麦は絶品である。雪に閉ざされた自然の恵みを食文化に生かしている印象を受けた。

下山後、新蕎麦の郷土料理を味わいつつ仲間と登山の反省会をし、次回の山談義をした。

### 【行程】

- 距離：往復11km強、往復5時間、標高差1215m
- 11:00 滝沢登山口。
- 12:13 水場。
- 13:30 駒の小屋着 昼食。
- 13:50 駒の小屋発。
- 14:05 会津駒ヶ岳頂上（燧ヶ岳などを展望）。
- 14:10 頂上発。
- 14:25 駒の小屋着。
- 16:00 滝沢登山口着。



入道雲が沸き立つ会津駒ヶ岳頂上